表面科学 Vol. 37, No. 9, p. 415, 2016

巻　頭　言

学会の国際化

長谷川　修司

私は，現在，本会の国際事業担当理事を務めていますので，その活動内容を紹介いたします。物理学会や真空学会などの場合，他国での対応する学会との連携強化を図れば国際化が進むでしょうが，表面科学会は，おそらく世界で唯一の学会であり，他国には対応する学会がありません。ある意味，孤立無援の学会ですが，逆にいえば，他国に「海外進出」できる学会です。とはいえ，実際は，学術分野として重なる関連学会との連携強化も進めています。

本会の国際化のための最大のエンジンは，3 年おきに開催している国際会議シリーズ ISSS（International Symposium on Surface Science）でしょう。毎回，参加者と発表論文数が増えており，来年には筑波で第 8 回目 ISSS-8 が開催されます。ヨーロッパでの ECOSS（European Conference on Surface Science）と米国真空学会（AVS）の International Symposium and Exhibition に並ぶ第 3 極の位置を目指して ISSS を拡充しています。

そのために，2014 年に松江で開催された ISSS-7 から二つの新規事業を始めました。一つ目は，在日スイス大使館と IBM チューリッヒ研究所のご協力をいただいて，国際的な賞 The Heinrich Rohrer Medal を創設して第 1 回目の授賞式ならびに受賞講演を行いました。来年の ISSS-8 では第 2 回目の授賞式を行う予定です。二つ目は，「海外在住正会員」を創設し，海外からの ISSS 参加者のうち希望者にはその資格を与えています。Web アクセス権などを与え，海外で本会を身近に感じてもらい，まさに「海外進出」の足がかりになればと考えています。

また，2015 年から国際フェロー（The SSSJ Fellow International）を創設しました。現在は 3 名だけですが，少しずつ増やして海外での本会のシンパを増やそうと考えています。

海外の関連学会との連携もここ数年で強化されています。日本真空学会，韓国真空学会および本会が，合同シンポジウムの開催を約束する MOU を結び，学術講演会で特別セッションを開催しています。昨年の特別セッションは，中国，台湾，米国の真空学会も合流して開催されました。また，2015 年から毎年ハワイで開催される AVS 主導の国際会議 PacSurf（Pacific Rim Symposium on Surfaces, Coatings & Interfaces）には，本会は日本真空学会と対等な立場で協力しています。3 年に一度開催される国際真空学会 IVC（International Vacuum Congress）にも日本真空学会と協力しながらかかわり，将来の IVC 日本誘致活動を行っています。

また，他の委員会活動になりますが，英文電子ジャーナル e-Journal of Surface Science and Nanotechnology や英文書籍の発刊など，本会は海外への情報発信をますます強化しています。

（東京大学大学院理学系研究科）

Making SSSJ International

Shuji Hasegawa (University of Tokyo, School of Science)